

# 日本初記録のアナバネコツブゲンゴロウ(新称)

堀 繁久  
Shigehisa HORI

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53の2 北海道開拓記念館

コツブゲンゴロウ科*Noterus*属のゲンゴロウは、従来日本から2種知られていたが、既知の2種とは全く異なる3種類の種を北海道から発見したので、日本初記録種として報告する。

発見したコツブゲンゴロウは、日本から知られていたコツブゲンゴロウ、ヒゲブトコツブゲンゴロウと違い上翅の後半部に大きな点刻を有する特徴的な種で、ヨーロッパ産の標本との比較検討の結果、*Noterus clavicornis*と同種と認め報告する。ただし、ヨーロッパ産の*Noterus clavicornis*は産地によってその体サイズや上翅の点刻などに様々なバリエーションがある。

*Noterus clavicornis* (De Geer)

アナバネコツブゲンゴロウ(和名新称)

De Geer, 1774, *Me'm. Hist. Ins.*, IV:402 (*Dytiscus*)  
New Locality: Near Tofutsu Lake, Hamakoshimizu, Koshimizu-cho, Hokkaido Pref., Japan (1♀, 25. IX. 1994, S. Hori leg.)  
Nikuru-Numa, Yanbetsu, Koshimizu-cho, Hokkaido Pref., Japan (3♂1♀, 29. IX. 1996, S. Hori leg.; 39♂32♀, 5. X. 1996, S. Hori leg.; 13♂5♀, 6. X. 1996, N. Yamamoto leg.).

体長4.6-5.1mm、体幅2.45-2.7mm。体背面は膨隆するがコツブゲンゴロウに比べるとやや弱い。頭部背面、触角、口枝、前胸背板は黄褐色。脚は赤褐色。上翅は暗黄褐色で表面に非常に細かい微細印刻を装い、4条の不規則な点刻列の他に後半部を中心に大きなアバタ状の大点刻を散布する。光沢は、コツブゲンゴロウに比べやや弱い。前胸腹板正中部は陵状に隆起し、前縁部中央は三角状に突出する。前胸腹板突起は杓文字状を呈し、前基節間で強くくびれる。中・後腿節は、後縁内側に1列の刺毛列を持ち、コツブゲンゴロウに比べ細長い。♂では前・中脚7節第1節が強く拡大し、

体下面は咽喉板、前胸側片、前胸側板外方、前胸腹板突起、脚部を除き黒褐色から暗褐色で、コツブゲンゴロウよりも暗色である。触角は太く、第5節より10節まで外側縁が張り出す。第8節の外角は鋭く歯状に突出する。第9節は長さより幅が広い。♂交尾器中央片は薄くやや幅広く、基部2/5付近よりカーブし。キチン化はやや強い。♀では触角の第7節がややふくらむ程度で♂よりあきらかに細い。体下面は黄褐色～暗褐色で後胸腹板がやや暗化するが、♂の様な黒褐色部は持たない。

ヨーロッパ産の*Noterus clavicornis*と比較すると、平均して体サイズが大きく、上翅後半部に散布する点刻が大きいが、ヨーロッパでも地域によって体サイズや点刻の大きさ等で幅広いバリエーションがあり、現段階では日本産を亜種として区別しなかった。

小清水町浜小清水の濤沸湖周辺の池では、多数のコツブゲンゴロウに混じって本種が1頭得られたが、小清水町止別ニクル沼周辺の池で得られた*Noterus*は本種のみで、高い密度で生息していた。ニクル沼付近の生息地はかなり富栄養な湿地の池で、同所的にカラフトシマケシゲンゴロウ、オオシマゲンゴロウ、キタヒメゲンゴロウ、ヒラタヒメゲンゴロウ、ゲンゴロウモドキなどとともに得られている。本種は実体顕微鏡で拡大すると特徴的な点刻により一目で区別できるが野外で生きている個体を肉眼で区別するのはかなり難しい。

現在までの知見では、今回発見されたアナバネコツブゲンゴロウは、国内ではオホーツク沿岸の低地帯の池沼からしか見つかっていない。しかし、コツブゲンゴロウと大きさが重なっており、実体顕微鏡で検鏡しない限り区別が難しいために混同されていることも考えられ、今後の詳細調査により新たな分布域の発見が期待される。

日本産Noterus属の検索表

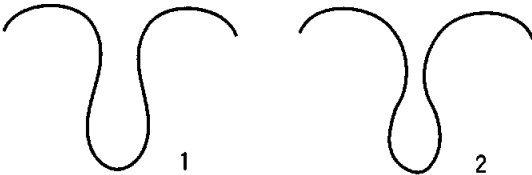
1) 前胸腹板 (Prosternum) の前基節間のくびれは弱い(Fig.1.)。後腿節内縁の刺毛をともなった点刻列は基部よりでまばらになり、中央部では消失する。体型はやや細く、小型3.8-4.3mm。♂は、触角は第5・6節が明らかにつづく7節以後の節より強く広がり、前胸腹板の中央部が平坦となる。

…………… *N. angustulus* Zaitzev

ヒゲトコツブゲンゴロウ

：国内では、北海道及び東北北部に分布(産地は局地的)。国外では極東ロシア、中国、朝鮮半島から知られる。

— 前胸腹板 (Prosternum) の前基節間のくびれは強い(Fig.2.)。後腿節内縁の刺毛をともなった点刻列は基部より腿節端まで規則的に並ぶ。体型は太く大型4.3-5.1mm。雌雄ともに前胸腹板の中央部が稜状に隆起する。…………… 2



Figs.1,2. Prosternal process of *Noterus* spp. ———  
1. *N. angustulus*; 2. *N. clavicornis*

2) 上翅は暗黄褐色で、上翅には不規則な点刻列を有するが、点刻はごく浅く不明瞭である。背面は強く膨隆し、光沢がある。4.3-4.9mm

…………… *Noterus japonicus* Sharp

コツブゲンゴロウ

：北海道から沖縄まで各地に分布。国外では、朝鮮半島、中国、台湾に分布。

— 上翅は黄褐色で、浅い4条の不規則な点刻列を有する他、後半部を中心に刺毛を伴う明瞭な大点刻を散布する。4.6-5.1mm

…………… *Noterus clavicornis* (De Geer)

アナバネコツブゲンゴロウ (新称)

：国内では、北海道(網走地方)に分布。国外では、ヨーロッパ、ロシア、コーカサス、中央アジア、イラン、シリアなどから知られる。

\* *Noterus crassicornis* について

今回、日本およびヨーロッパの*Noterus*を調べの際に、神奈川県立生命の星・地球博物館に保管されている阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本も調べさせていただいた。その中に*Noterus crassicornis*が青森県から記録されていることになっていたが、神奈川県立生命の星・地球博物館(1995)の阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録に掲載されている*Noterus crassicornis* Mill. 青森県六ヶ所村平沼, 1990.08.23, N.Hidaka leg.(29915-29916)の記録は、標本を確認したところ*N.angustulus*ヒゲトコツブゲンゴロウであった。ここに訂正しておく。

比較標本の借用でお世話になった神奈川県立生命の星・地球博物館の苅部治紀氏、Dr. Franck Bameul氏と山本直樹氏、文献の入手でお世話になった森正人氏、および調査に同行いただいた松本英明、佐々木恵一、大山克也の各氏、そして和名の提唱と発表の催促をいただいた北山昭氏にお礼申し上げる。

参考文献

森正人・北山昭(1993) 図説 日本のゲンゴロウ、文一総合出版  
Zaitzev, F. A.(1953) Fauna of the U.S.S.R., Coleoptera. (in English, 1972), Vol. IV:95-100  
中根猛彦(1993)日本の雑甲虫覚え書10、北九州の昆虫40-1: 1-8  
神奈川県立生命の星・地球博物館(1995) 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録、神奈川県立博物館自然部門資料目録第8号: 7-8

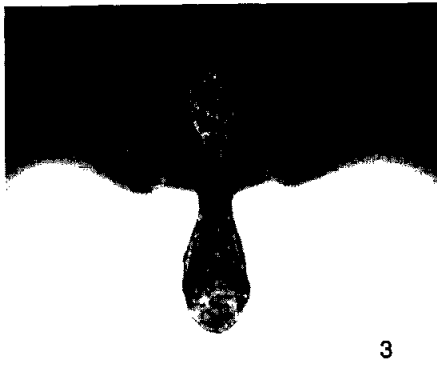
# The Noterid Beetle newly recorded from Japan

Shigehisa HORI

Historical Museum of Hokkaido, Konoporo, Sapporo, Hokkaido, 004-0006 Japan

## Abstract

Two species of the Noterid Beetle genus *Noterus* have been hitherto known in Japan (Mori & Kitayama, 1993). Recently, I discovered an unrecorded species of this genus in Hokkaido, Northern Japan. After an investigation and comparison with European specimen, this species was identified as *Noterus clavicornis*. It was the first record that the species was found in the Far East. Finally, photographs of those 3 species of Japanese *Noterus* and a key to the species are added.



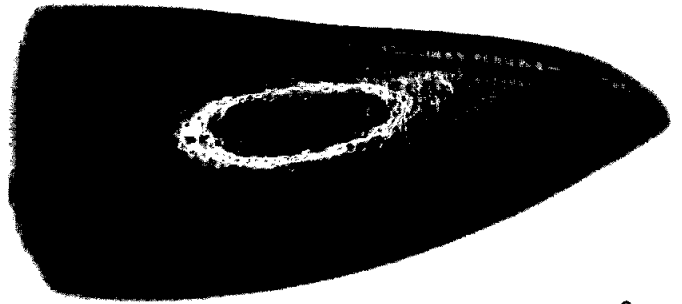
3



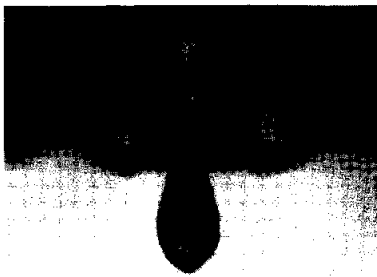
4



5



6

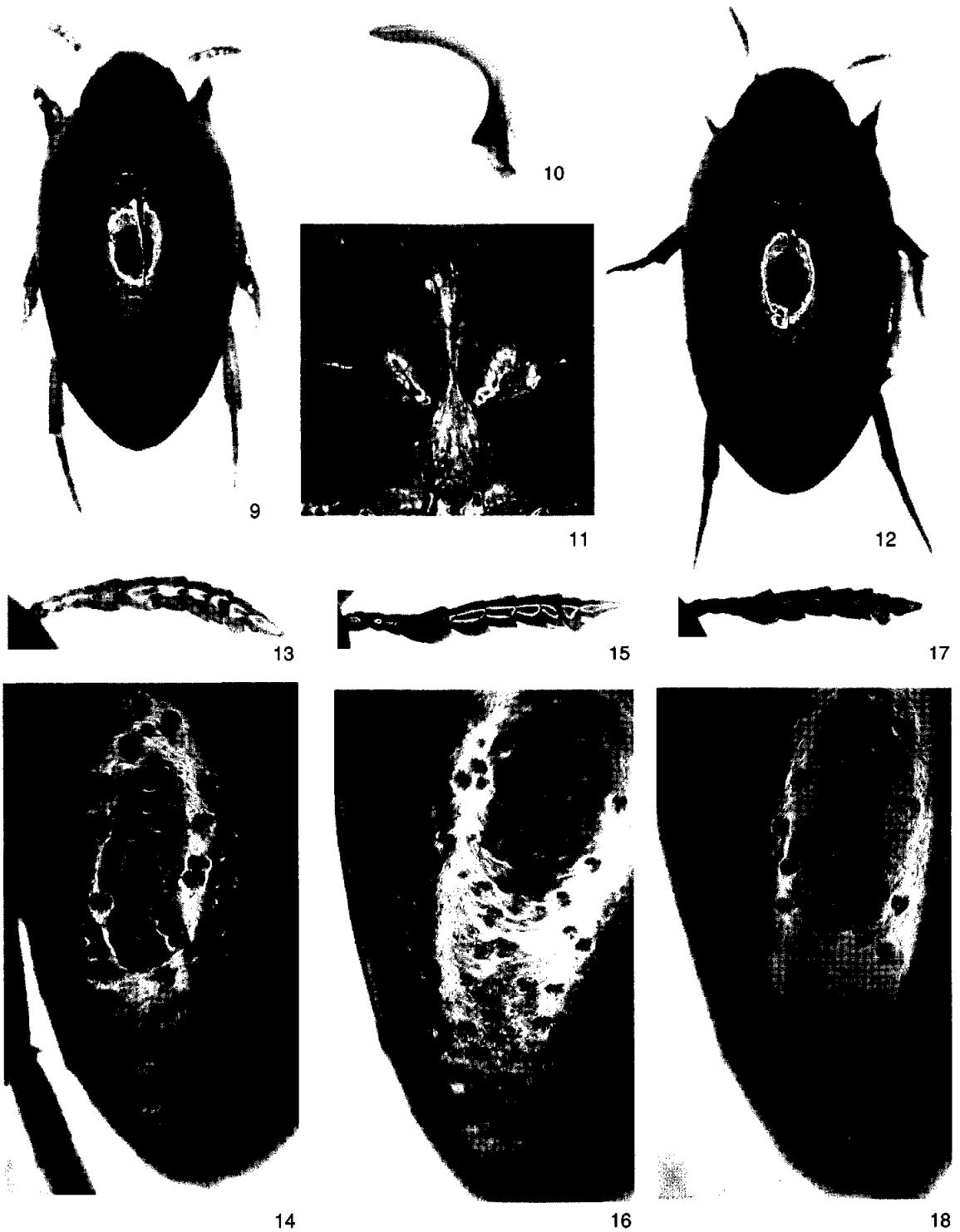


7

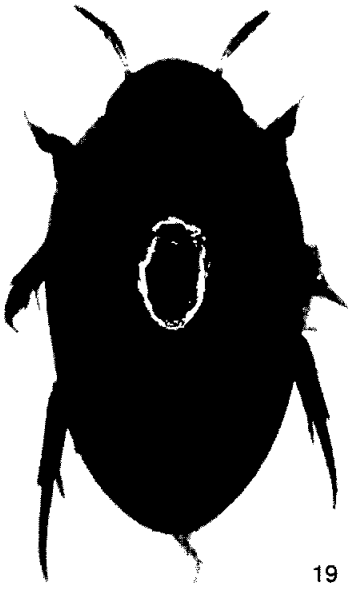


8

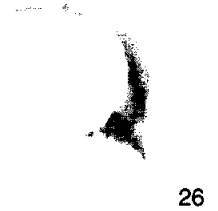
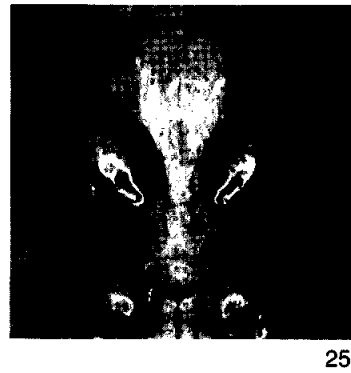
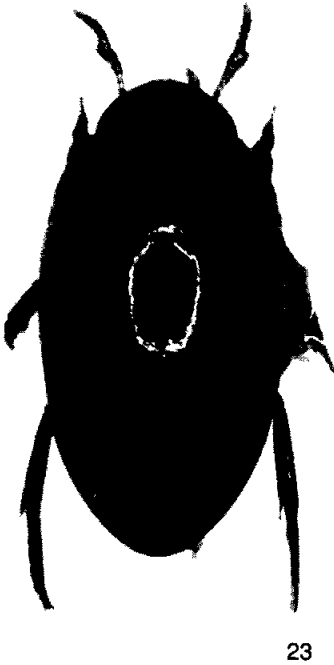
Figs. 3-8. Prosternum and Elytron. ———3, 4. *N. clavicornis*; 5, 6. *N. japonicus*; 7, 8. *N. angustulus*



Figs. 9-18. *N. clavicornis*(9-14. from Hokkaido; 15,16. from Germany; 17, 18. from France ——9. male, dorsal view; 10. male genitalia; 11. prosternum; 12. female dorsal view; 13-17.righte antennae; 14-18. apical part of left elytron in posterodosal view.



*Noterus japonicus*  
Tomakomai C. Utonai  
10. X.1996 S. Hori leg



*Noterus angustulus*  
Tomakomai C. Utonai  
10. X.1996 S. Hori leg

Figs. 19-22. *N. japonicus*——19. male, dorsal view; 20. right antennae; 21. prosternum; 22. male genitalia  
Figs. 23-26. *N. angustulus*——23. male, dorsal view; 24. right antennae; 25. prosternum; 26. male genitalia